



大 剣 通 信

正しく 強く



今月の《大剣塾》

11月号の、サトウハチローさんの「剣道に学ぶ」はいかがでしたか。今月号からは、3回にわたり「剣道の歴史」についてです。〔第1回〕は「竹刀剣道の誕生」です。

今使われている竹刀や防具が考えられたのは江戸時代中期で、長沼四郎左衛門という人が1710年頃に「面」と「小手」を完成させ、竹刀による打ち込み稽古を始めたのが始まりとされています。(諸説は沢山あります)そして、1760年頃に中西忠蔵子武という人が、「胴」を加え、「面」も改良されて、更に竹刀による打ち込み稽古が活気を増し、たちまち人々を剣術の虜にしていきました。これ以降は、木刀による稽古(現代で言う日本剣道形)などに変わって、竹刀と防具による稽古や試合が盛んに行われるようになっていきました。

今から約300年前に「竹刀剣道」が誕生し、多くの剣豪により隆盛を極めていきますが、剣道にも厳しい時代がありました。次号〔第2回〕は「剣道の禁止令」です。

Qここで問題です。当時使われていた竹刀の長さは、①・②のどちらでしょうか？

- ①短くても長くても、自分の好きな長さを使っていた。
- ②不公平にならないように、きちんと長さを決めていた。

正解と解説は左下

キリトリ

() 班 お名前

意見・質問・感想欄

- 回答をHPに掲載いたしますので、所属する班(名前は無掲載)は必ず記入してください。
- 武道館玄関口壁面のご意見箱に入れてください。
- ホームページ(<http://daiken.e-nasu.net>)の問い合わせフォームから匿名での投稿もできます。

◎正解と解説

①: その頃の竹刀の長さは、自然のものを好きな長さで切って使っていたようです。長さをしっかりと決めたのは徳川幕府でした。それは、長い竹刀を使い、ただ勝つことばかりを考えている当時の剣道人の考え方を変えるために、長さを「三尺八寸」と定めたのでした。徳川幕府は、戦いのない平和な時代だからこそ、「勝利至上主義」的な考え方を戒めたのかもしれませんが。

発行日 平成24年12月1日 2号
発行元 大田原少年剣道教室指導者会